**5月の定例教育委員会のお知らせ**　**日時**　5月12日㈭　13時30分～　**場所**　第2委員会室（自由に傍聴できます）
**■問い合わせ**　教育委員会 教育総務課　☎75－3450

小中一貫教育 ●連載 No.38●

## 地域とともにある学校づくりを目指して

### 4月から多久市教育長に就任した田原優子（たばるゆうこ）教育長に抱負を伺いました。

**○教育長としての抱負は？**

多久市の西渓校校長など教育現場で、子ども達と35年携わってきました。4月から中川正博教育長の後任として就任し、身の引き締まる思いをしています。

多久市の子どもを自己肯定感に満ちた子に育む教育実践を展開したいものです。自己肯定が満ちれば、人に優しくできるものです。

優しくて尚かつ、たくましく生きぬく子を育てたいと思います。

**○小中一貫校の現状は？**

小中一貫校になって3年が経ち、その良さが学校のいたるところで見られるようになってきました。小学生との触れ合いを通じて、中学生としての自覚はもちろん、小さい子を思いやって見かねて助けるという昔、街角にあった風景が今学校の中で生まれています。

**○今年度、特に力を入れていくことは？**

小中一貫校の形ができあがりました。これから魂を吹き込むときだと思います。より充実した小中一貫校を目指します。

また、「コミュニティ・スクール」に取り組みます。再び、市内のいたるところで、子どもたちの声が響くように地域のみなさんのお力を貸してください。「市民総がかりでの学校づくり」です。

**○地域との連携で、協力を求めたいことは？**

高齢者の技と知恵は地域の宝です。共に知恵を出し合い、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えていただくとありがたいです。

子どもたちは、さまざまな問題を抱えています。その心に寄りそい導くために、日頃から学校と地域が繋がり、課題を共有できれば、子どもたちが夢や希望をもって成長することができます。

どうぞ遠慮なく学校に足を運んでください。

▲9年生に手をひかれ、遠足を楽しむ1年生

**■問い合わせ**　教育委員会 学校教育課　☎75－2227

## 温故創新　市長コラム　Message for citizen

# 震度7の熊本地震

市長　横尾　俊彦

4月14日21時26分。九州に激震が走りました。市内は震度3。震源は熊本地方。さらに16日午前1時25分にも。市内は震度4。震源は同じく熊本地方。いずれも震度7という大きな地震です。あの阪神淡路大震災と同じ振動です。

すぐに対策本部を立ち上げ対応しました。2回目の激震では避難所を各町公民館と納所会館に開設。最大19世帯49人の自主避難者でした。翌17日9時前に全員が帰宅されました。市内で地震の被害はなく、市民の皆さんのケガもなく安堵しました。

しかし、被災地は被害甚大。時々刻々入る情報や報道では震源周囲の被災状況はひどく、余震も多く、被害拡大状況です。家屋の倒壊・半壊、道路・橋の損壊や崩落、尊い人命も失われました。避難生活でエコノミー症候群により体調を崩した方もあります。

発災後すぐに救助犬と伴に現地入りした市職員、緊急援助隊として急行した消防署員、災害医療対応DMAT隊として奔走した市立病院医師他スタッフの働き。民間ネットワークでは支援物資（おむつ、生理用品、トイレットペーパー、おしりふきなど）を収集・搬送、市内誘致企業からも飲料水提供。市も庁舎倒壊状況の宇土市へ飲料水・ブルーシートなど支援物資を搬送など、様々な動きが広がりました。全ての皆様に感謝を捧げます。

避難者受入れは市営住宅などでの体制も整え、北多久町の雇用促進住宅は熊本県が管理本部と使用許可交渉されています。

19日に多久市で被災地支援本部を立ち上げ、複合的支援を展開しています。佐賀県と県内20市町は協力し熊本県阿蘇郡西原村を重点支援します。人口は7千人程、約半数が避難者で、家屋の約半数が倒壊・半壊という厳しい状況です。人員派遣も行います。

今後も様々な支援が必要です。必要に応じてお知らせしますので、その際にはよろしくお願いいたします。なお、義援金受け付けも市役所・各町公民館・社会福祉協議会で行っています。